

JNCS Editor 屋さんの7年

東京工業大学応用セラミックス研究所

川 副 博 司

Seven years as a Regional Editor of JNCS

Hiroshi Kawazoe

Materials and Structures Laboratory, Tokyo Institute of Technology

あー、間もなく終る！ これで永年の気苦労から解放されそう。作花先生の後を受け、私が JNCS 誌の Regional Editor を担当して、もうすぐ7年になる。その間に、総計 215 件の投稿論文を受け付けた。自分が投稿した論文の審査状況がどうなっているかは、我々にとって共通に重大な関心事である。従って、常時 20 件程度の論文をお預かりしている立場としても、いつも借金返済の期限に追い立てられているような、慢性的焦燥感に苛まれ続けてきた。今年3月の東工大定年を機に、私は Editor の職も辞することにした。今、その日を心待ちにしているところである。以下思いつくままに、その間に感じたことのアレコレをおしゃべりさせて頂く。暫くの間お付き合いをお願い致します。

1. レフリー諸氏への感謝

まず第一に、論文審査に御協力下さった延べ約 450 人の方々にお礼申し上げます。この時期私自身の研究がガラス及び非晶質から離れていたために、どなたがどのような研究をされているかに関する情報が不足気味であった。その結

果、中には繰返しレフリーを押し付けられた方も居られる。JNCS の査読では、知的労力の無報酬提供にとどまらず、郵送料の負担までもお願いした。ここでこれらの方々のお名前を挙げることは出来ないが、多くの偉大な voluntary works に心から感謝申し上げる。

ここで査読者の方々にひとつお願いをさせて頂きたい。日本人のレフリーの方々は、論文の評価が低い場合、何とか救う方向の努力をされる傾向をお持ちのように感じた。特に却下の判定に近い場合それが顕著であるように思う。大幅な改訂が必要とお考えの場合は、むしろ一度却下にして著者に迅速な改訂の機会を提供する方が良いと考えている。

2. 著者へのお詫び

ついで、概して審査に長時間を要したことを、投稿者の方々にお詫びしたい。これは、JNCS 誌が複数レフリー制をとっていたこともひとつの理由ではあるが、どちらかと云えば私の責任の方が大きい。言い訳になるが、私自身の作業もまた voluntary work である。1. で述べた意識をもちながらも、本務に関係することがつい優先されがちであった。Editor の Weeks 教授は、この間、高い美意識と倫理観をもって編集に関する仕事をされていたので、

自分自身の怠慢ぶりが明らかになることは苦痛の連続だった。

この点に関しては、Editor が Simmons 教授に交代したことを機に、Letter（本来の速報）の充実と単独レフリー制の部分的導入が決定された。これにより、審査時間の短縮が可能になるものと期待している。

3. 投稿者へのお願い

ひとつの論文が出版されるまでには、著者からは見えにくいところで多くの方々の支援と協力が必要とされている。従って論文投稿にあたっては、最低限読み通すことが出来て、且つ内容が理解できる原稿を作成することが著者の礼儀であると思う。以下に投稿にあたって是非とも御注意頂きたいことを記す。

- 1) そう多くはないが、スペルチェックがかかっていない原稿を受け取ったことがある。これは失礼を通り越して問題外である。
- 2) 明らかに共著者（特に大先生）が目を通していないと分かる論文が投稿されることがある。これは研究グループの論文というものに対する基本姿勢を疑わせる出来事だ。Weeks 教授が全著者が内容及び表現に責任を持つという書類をつくり、これに

サインを求めたのはこのあたりの事情による。

- 3) 著者のひとりよがりの論文を読まされるのは不愉快です。通常読者は著者と同じ情報をもっておらず、且つ異なることを考えている。この当然のことを意識せず、読者が自分と全く同じ環境にあると思い込んで書かれている論文はかなり見受けられます。論文を書き始めて日が浅い方は当然この傾向をもつわけですが、査読者は異常な忍耐なしにはこれを読めません。投稿前に、少し領域が離れた方に内容が理解できるかどうかを判断して頂くことをお勧めします。
- 4) 論文の構成、流れが掴めず、読み通すのに多大な困難を伴う論文も散見されました。論文作成にあたっては、論文の構成、論述の流れとそれをサポートするデータの配列に注意して頂きたいと思います。

以上勝手なことを書き連ねました。JNCS 誌の我国における Editorial Board は 1999 年 4 月から強化され、東西に 1 人ずつの Regional Editor が置かれる見込みです。Simmons 教授及び Elsevier 社としても本誌が関係学界・産業界により大きく貢献できるよう努力していますので、変わらぬ御寄稿を期待しています。長い間御協力有難うございました。